

第30回原子力委員会定例会議議事録

1. 日 時 2013年8月6日（火）10:30～10:56

2. 場 所 中央合同庁舎4号館4階443会議室

3. 出席者 原子力委員会

近藤委員長、鈴木委員長代理、秋庭委員

外務省 軍縮不拡散・科学部

田口首席事務官

内閣府

板倉参事官、氏原参事官補佐

4. 議 題

（1）平成26年度原子力関係経費概算要求構想ヒアリング（外務省）

（2）アジア原子力協力フォーラム（FNCA）「原子力発電のための基盤整備に向けた取組に関する検討パネル」第5回会合の開催について

（3）その他

5. 配付資料

（1）平成26年度原子力関係経費ヒアリング（外務省）

（2）アジア原子力協力フォーラム（FNCA）「原子力発電のための基盤整備に向けた取組に関する検討パネル」第5回会合開催について（案）

6. 審議事項

（近藤委員長）おはようございます。第30回の原子力委員会定例会議を開催させていただきます。

本日の議題は、1つが「平成26年度原子力関係経費概算要求構想ヒアリング」の一環として、外務省からお話を伺うことです。それから、2つが「アジア原子力協力フォーラム（FNCA）「原子力発電のための基盤整備に向けた取組に関する検討パネル」第5回会合の

開催について」、御説明を伺うこと、3つ、「その他」でございます。よろしゅうございますか。

では、最初の議題からよろしくお願いします。

(板倉参事官) 外務省の平成26年度原子力関係経費概算要求構想につきまして、外務省の田口主席事務官並びに樋川課長補佐から、御説明をお願いいたします。よろしくどうぞお願いいたします。

(田口氏) 外務省軍縮不拡散・科学部国際原子力協力室の首席事務官をしております田口と申します。

外務省の平成26年度の原子力関係経費の予算要求の状況について説明させていただければ幸いです。

外務省の平成26年度の原子力関係経費の予算要求については、検討中でございます。平成24年度及び平成25年度、当省においては、資料にお示しした「IAEA 分担金」、「IAEA 技術協力基金」及び「平和利用イニシアティブ拠出金」の主に3つの施策に係る経費を計上してきています。こうした事業は引き続き重要であると考えておりますが、平成26年度予算要求に際しては、為替レートが円安の方向に大きく振れているため、こうした分担金、拠出金については、厳しい予算要求となる可能性が考えられるという状況でございます。

3つの施策について説明させていただきます。

1つ目の「IAEA 分担金」は、IAEA の通常予算のための分担金であり、義務的な拠出となっております。

2つ目は、「IAEA 技術協力基金」でございます。IAEA は、核不拡散及び原子力の平和的利用の促進を二大目標としているところ、平和的利用の促進に当たっては、原子力安全、核セキュリティ及び軍事利用への転用防止をしっかりと確保していく必要があります。このために IAEA に加盟する開発途上国に対して、技術協力を実施するための基金でございます。

IAEA においては、日本にとって重大な関心事である北朝鮮やイランの核問題についても議論が行われており、こうした国際場裡において、我が国の立場に理解や支持を得ていくためにも、技術協力を通じた協力は、極めて重要なものとなっている次第でございます。

3つ目が、「平和利用イニシアティブ拠出金」でございます。こちらも IAEA を通じて行う技術協力を行うための基金ですが、IAEA の活動をより一層強く支えていくべく、米国が設立を呼び掛け、開始されたものです。我が国は平成23年度から拠出を行っており、本基

金を通じた協力は、プロジェクト毎にしっかりとイヤーマークされ、効果的に行われています。

以上、3つの施策は、今年の7月に原子力委員会が決定した「平成26年度原子力研究、開発及び利用に関する予算要求の基本方針」にも合致するものと考えております。

具体的には、資料に「参考」として抜粋させていただきましたが、「原子力安全や核セキュリティに係る取組を率先して推進していくべきである。さらに、その責任を果たす観点から、国際社会において進展する原子力利用が高い水準の安全と核セキュリティを確保しつつ進められるよう、積極的に貢献していくべきである。」、「高い原子力安全、核セキュリティ、核不拡散の確保に向け、IAEA・・・等の多国間の取組や安全条約等への対応への取組を積極的に推進すべき。」といった部分に合致するものと考えています。

平成26年度の予算要求は、為替レートとの関係で厳しい可能性がありますが、これら3つの施策は、原子力委員会が決定した基本方針にも合致するものと考えており、御理解を賜ればと考えております。

(近藤委員長) 御説明ありがとうございました。冒頭おっしゃられた為替レートの問題というのは、こういう解釈でよろしゅうございますか。すなわち、IAEA との分担金等については、例えばユーロ建てであるとか、ドル建てであるとか、要するに外貨建てで義務的経費としての金額が定まるところ、これを邦貨に換算すると、レートによって、これまでユーロで言えば110円ぐらいだったのが、多分、今年は130円ということで2割ぐらい、円に換算すると支払うべき金額が増えるという、そういう問題があるということをおっしゃられたということではよろしゅうございますね。

(田口氏) そのとおりでございます。

(近藤委員長) IAEA に言わせればフラットな予算であっても、日本国としてはコントリビューションが増えざるを得ないということですね。

それでは、どうぞ、御質問、御意見等。

鈴木代理。

(鈴木委員長代理) 確認なんですけれども、そうすると、外貨ベースでは、多分というか、分担金はもう決まっているわけですから、同じ金額と考えていいんですか。それもわからないんですか。

(田口氏) IAEA では、9月に IAEA 総会が開催され、その場で最終的な決定がなされ、日本の拠出額も決まっていくというのが例年のプロセスでございます。

(鈴木委員長代理) 去年はちょっと、24年度、5年度は分担金、円ベースでは減っているのが、むしろこの円高の影響だったということ。

(田口氏) 当該拠出金がユーロ建てかドル建てか等によって影響は変わってきますが、御指摘のとおり、為替レートの変動による影響があります。

(鈴木委員長代理) 技術協力基金のほうは、これは義務ではないわけですか。

(田口氏) 「IAEA 分担金」及び「IAEA 技術協力基金」は義務的拠出金です。「平和利用イニシアティブ拠出金」は任意の拠出金ですが、IAEAを支える、また、我が国出身の天野事務局長を支える、また、米国との協力関係の観点からも…。

(鈴木委員長代理) 重要だと思います。

(田口氏) 重要だと考えております。

(鈴木委員長代理) そうすると、技術協力基金とイニシアティブ拠出金は円ベースでも25年度は増えていますよね。ということは円高であって、更に増額したという方針でいいんですか。

(田口氏) 為替レートの変動はありますが「平和利用イニシアティブ拠出金」についてはドルベースで毎年350万ドルを拠出してきております。

(鈴木委員長代理) そうすると、平和利用イニシアティブ拠出金は、ドルベースでは一緒だったということですか。

(田口氏) そのとおりです。

(鈴木委員長代理) そこはちょっと円安になってしまったということですね。

(田口氏) はい。

(鈴木委員長代理) なるほど。では、今年も、わからなくて申しわけないんですけども。

(田口氏) 細かいのですが、平成24年度は1ドル＝81円だったのが、平成25年度は1ドル＝82円となりました。一方、ユーロは平成24年度の1ユーロ＝112円から平成25年度は1ユーロ＝107円となっています。当該拠出金が、ドル建てか、ユーロ建てか、あるいは、ドルとユーロの混合であるかによって、こうした為替レート変動の影響も変わってきます。

(鈴木委員長代理) わかりました、了解です。

厳しいですね。

それと、核セキュリティという項目では、特に予算項目というのはなかったのですか。

(田口氏) 平成23年度からの3年度についていえば、核セキュリティに特化した拠出は行っ

てはいません。

(近藤委員長) あれは基金ですね。

(鈴木委員長代理) で、一時金であれでしたんですよ。

(田口氏) 過去には核セキュリティに関し、拠出を行ったことがあったと承知しています。

(鈴木委員長代理) わかりました。

それから、二国間協定とか、その辺は今後の予算というのはどうなっていますか。

(田口氏) 引き続き原子力協定交渉参加のための職員旅費等は計上していますが、他省庁と平仄を一致させ、こうした事務的経費は計上せず、よりはっきり事業として捉えられるものを「主な施策」として御説明させていただいてきております。

(鈴木委員長代理) よろしく願いいたします。

(田口氏) はい。

(近藤委員長) では秋庭委員。

(秋庭委員) 私は特に質問はありませんが、国際社会における責任ある一員としての取組ということ、私どもの基本方針にも書いております。大変重要な予算だと思っておりますので是非しっかりお願いいたします。

(田口氏) 国際社会における責任ある一員としてしっかり取り組んでいきたいと考えています。

(近藤委員長) さっきちょっと申し上げたように、トップの項目が2割変わるということは、とてつもなく大きな変動で、平和利用イニシアティブ拠出金の金額を超える、はるかに超えるかもしれないぐらいの変動があるということで大変だなと。どうやって苦勞されるのかなと、まことにご苦勞様という感じもするわけですが、それはそれとしまして、いわゆる国際社会との関係においての取組は外務省のこの予算だけではなくて、様々な省庁がなしている部分もありますので、これは私どもの責任であるのかなと思いつつ、こうした国際的な取組に日本はこれだけ予算を使っているんだということを閲覧できるものがどこかにあるかなと思って調べると、結局は余りちゃんとしたものがないなという感じを持っています。

例えば核セキュリティサミットにおいて、あのときは当時の鳩山総理が人材育成に貢献しますということをおっしゃって、それは実際に JAEA の核セキュリティセンターという格好で現実化したわけですが、それもそれなりの費用を毎年投じているわけですが、あれは JAEA の予算なんで、運営費交付金ですから、中身が我々からは見えないという格好になっています。日本国としての国際社会への貢献を金額面で見るというツールがなかなかないなと思って、これは何とかしなくてはいけないかなというふうに思っているところですので、

白書等において原子力委員会がそういうことあきらかにするべきだということなんだろうとは思いつつ、しかし、お互いに情報を共有しなければ仕事はできませんので、これは今日の議題ではないんですが、今後そういうことについても少し工夫をできないか、御相談することがあると思っていますので、よろしくお願いいたします。

よろしゅうございますか。それでは、今日、御説明ありがとうございました。

(田口氏) 本日はありがとうございました。

(近藤委員長) それでは、次の議題。

(板倉参事官) 2つ目の議題でございますが、「アジア原子力協力フォーラム(FNCA)「原子力発電のための基盤整備に向けた取組に関する検討パネル」第5回会合の開催について」、事務局の氏原参事官補佐から御説明をお願いいたします。

(氏原参事官補佐) それでは、事務局より資料について御説明をさせていただきます。

それでは、資料を読み上げさせていただきます。

アジア原子力協力フォーラム(FNCA)「原子力発電のための基盤整備に向けた取組に関する検討パネル」第5回会合開催について。

平成25年8月22日木曜日から8月23日金曜、三田共用会議所において、アジア原子力協力フォーラム(FNCA)「原子力発電のための基盤整備に向けた取組に関する検討パネル」第5回会合を下記のとおり開催いたします。

今次会合では、中小型炉開発、緊急時対応・準備における地域協力、核セキュリティ、ステークホルダーインボルブメント等について議論し、東京電力福島第一原子力発電所の現況と今後、事故後の日本における安全の取組について情報提供をする予定です。

主催は内閣府、原子力委員会。

開催日は、平成25年8月22日木曜日から8月23日金曜日、前日の8月21日には、東京電力福島第一原子力発電所の現地視察を実施する予定。

開催場所は東京の三田共用会議所、国際会議室の3階となっております。地図を別添としてつけております。

参加予定国は、バングラデシュ、中国、インドネシア、日本、カザフスタン、韓国、マレーシア、モンゴル、フィリピン、タイ、ベトナムとなっております。

我が国からは、近藤駿介原子力委員会委員長及び原子力委員会各委員、尾本彰国立大学法人東京工業大学特任教授、町末男 FNCA 日本コーディネーター、そのほか関係省庁等が出席予定となっております。また、今回は IAEA から講演をいただく予定となっております。

次のページに、今回のこの第5回会合のプログラムをお付けしております。

まず、セッション1として、開会セッションがございまして、ここで開会歓迎の御挨拶、参加者自己紹介、アジェンダの採択を行います。この部分はプレスオープンとなっております。

続きまして、セッション2として、東京電力福島第一原子力発電所の現況と今後。

セッション3といたしまして、東京電力福島第一原子力発電所事故後の安全の取組。

セッション4として、中小型炉開発。

セッション5として、緊急時対応・準備における地域協力となっております。

続きまして、8月23日の議題といたしましては、セクション6として、核セキュリティ。

セッション7として、ステークホルダーインボルブメント。

セッション8として、パネル会合の今後の計画。

セッション9として、今次パネル会合の総括と第14回大臣級会合向け報告案。

セッション10が閉会のセッションとなっております。

その他、先ほども御説明いたしましたが、8月21日に東京電力福島第一原子力発電所の現地視察を行う予定となっております。

このプログラムは現時点の内容でございまして、各国等との調整により、プログラムの詳細については変更となる場合がございます。

次のページに会場の地図をお付けいたしまして、また、その次に今回の各国等からの出席者一覧をお付けしております。説明の詳細については割愛させていただきますが、韓国からの出席者については、現在調整中のところでございます。

また、各国以外の参加者といたしましては、IAEA からポール・ウッドハウス、IAEA 原子力安全・核セキュリティ調整課長、現アジア原子力安全ネットワークプログラムマネージャーに御出席いただきます。また、元 IAEA の核セキュリティ室防止課課長のミロスラブ・グレゴリッチ氏に御参加いただきまして、講演をいただく予定となっております。

このうち、ポール・ウッドハウス氏は、ウェブ会議の形での参加となっております。その他、国内出席者といたしまして、尾本東京工業大学特任教授を初め町コーディネーター、その他、各省から御参加をいただく予定となっております。

資料といたしましては、次に FNCA の概要をお付けしております。

説明は以上でございます。

(近藤委員長) どうもありがとうございました。

それでは、御質問等、ございましたら、どうぞ。

鈴木代理。

(鈴木委員長代理) 先ほどの外務省の話ではないですけども、こういうのが非常に大事だということで、私としてはしっかり取り組まなければいけないと思っているんですけども、もともとこの発電のための基盤整備、いわゆる3Sと呼ばれているかと思うんですね、安定とセキュリティとセーフガードですよね。今回は規制当局からも御説明いただくということですね。

(氏原参事官補佐) 今回、原子力規制委員会から基盤整備課の田口補佐に御参加いただきまして、事故後の基準の見直しについて御説明をいただく予定となっております。

(鈴木委員長代理) それを前提に、大事なことは、やはり事業者や推進をしている政府の取組が大事だと思うんですね。来られる方々も、どちらかというと、そちら側の方が多いですからね。その辺を是非しっかり議論していただきたいというのが私のお願いです。よろしくお願いします。そういうふうになっていますよね、プログラム。

(氏原参事官補佐) はい。なっております。

(近藤委員長) よろしいですか。

(鈴木委員長代理) はい。

(近藤委員長) 秋庭委員。

(秋庭委員) 私は8月23日のセッション7のステークホルダーインボルブメントのところでお話しさせていただこうと思っております。今後、原子力発電を導入していこうとしているアジアの国々においても、ハードの面も大変重要ですが、ステークホルダーとのかかわりということを最初からしっかり考える必要があると思っております。、この点について課題を提供し、また、皆様でディスカッションができればと思っています。よろしくお願いします。

(近藤委員長) 私からは、ひとこと。小さな事ですが、ステークホルダーインボルブメントというのは、英語か日本語か分かりませんね。何とかありませんかねと思います。

(鈴木委員長代理) 日本語にしたほうがいいですね。

(近藤委員長) ここで出す資料は少なくとも日本語にしたほうがいいと思いますけれどもね。会議場ではステークホルダーインボルブメントで通じるんだろうと思いますけれども。

(鈴木委員長代理) 向こうは、会議では英語でしゃべっている。

(近藤委員長) 会議資料としては何かおかしい。そこは少しお考えいただいて、もう今さら遅いかもしれないけれども、今、気づいたら変だなと見ていました。



なお、非常に重要なテーマが並んでいます。狙いは、中国、韓国を別にすれば、ベトナムが少し前に進んでいるのと、バングラデシュがいろんなことを言っているという、そういう感じのところ、そういう国々に対して、適切な情報提供ができ、考えを伺うことでしょうか、それはとても大事なのかなという感じがいたしまして、いずれにしても、非常に興味深い、これは私も参加いたしますが、原子力委員におかれましても適切にインボルブされるのか、するのか知りませんが、よろしくお願いいたします。

では御説明、これで伺ったことでよろしゅうございますか。

(氏原参事官補佐) はい。

(近藤委員長) ありがとうございます。

では、この議題はこれで終わります。

そういたしますと、その他議題で何かありますか。

(板倉参事官) はい。次回の会議の予定について御案内いたします。次回、第31回原子力委員会につきましては、開催日時は再来週8月の20日火曜日、10時半からでございます。場所は中央合同庁舎4号館の1階123会議室で開催いたします。

以上でございます。

(近藤委員長) ちょっと今日は早いけれども、これで終わりますか。

それでは、どうもありがとうございました。